

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673000156
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館
所在地	鹿児島県日置市伊集院町徳重三丁目3番地14 (電話) 099-273-8787
自己評価作成日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者が安心して穏やかな毎日を過ごせるよう、また地域の方々が「花々館に入居したい」と思えるような施設作りを心掛けています。
- ・医療連携の強化を図り、入居者様の健康管理を24時間体制で見守っています。
- ・職員全員が各種委員会(学習・身体拘束・感染対策・防災対策委員会)に所属しており、自主的に取り組むことで個々の資質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体医療法人との連携が図られ、緊急時の対応など24時間医療連携体制や通院でのリハビリ支援などが行われている。
- ・自治会に加入、地域行事やいきいきサロンへの参加、施設行事への地域住民の参加など交流も盛んである。また、日常的に散歩や買い物、通院でのリハビリなど外出の機会も多く地域の方々との挨拶や会話など馴染みの関係が築かれている。
- ・各種委員会が設置され、委員会が中心となり研修会や勉強会を計画、サービスの質の向上、職員の資質の向上に全職員で取り組んでいる。資格取得に向けての支援体制も整っている。
- ・「最終章をここでお世話になって良かった」と喜んでいただける施設を目標に、職員間、利用者とのコミュニケーションも良く、笑顔で明るい家庭的な雰囲気の施設である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での安心できる暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援を当事業所の理念の柱とし、毎朝の申し送り時に理念の唱和を行い、全職員の意識を高めるようにしている。	地域との関わりを重視した事業所独自の理念があり、ホールや玄関・各居室に掲示し、パンフレットにも掲載している。毎朝の申し送り時に唱和しケア会議等で振り返りを行い、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々と日頃から挨拶を交わし開放的な雰囲気づくりに努め、地域の行事への積極的な参加や、自治会に加入して奉仕作業等への参加を行っている。いきいきサロンに参加している。	自治会に加入し、回覧板で情報を共有し地域行事や奉仕作業・いきいきサロンでの交流等に参加している。中学校からの依頼で不登校の学生受け入れやクリスマス会には踊りのボランティア・中学生の職場体験・高校生の実習などを受け入れている。日々の散歩や買い物などで挨拶を交わす等、地域との交流がなされている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホームの新聞(花々館だより)を通じての啓蒙や、人材育成貢献の為に実習生の受け入れを積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1回の運営推進会議を開催。家族代表、民生委員、自治会代表及び行政の方々の参加を得ている。評価の結果報告や日々の活動状況、事故の報告等を行い、意見を求め、サービスの向上に活かせるように努めている。</p>	<p>会議は定期的開催している。入居者や職員の状況・行事報告・ヒヤリハット・事故報告・外部評価結果等の報告を行い、健康便りや花々館便りを配布している。参加者からの質問や職員ストレスに関する資料の提供等があり、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市が実施する説明会、研修会等に積極的に参加している。介護保険業務の円滑な遂行の為に、利用者と関係機関の間に立ち、連携を図れるように努めている。</p>	<p>市の担当者とは運営推進会議に参加してもらい助言を貰ったり、市主催の説明会や研修会に参加するなど、日頃から連携し、協力関係にある。福祉関係の担当者とは電話等で情報交換し助言を得るなど問題解決を図っている。新年度から介護相談員の受け入れを準備中である。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員が中心となり身体拘束委員会を設置し、知識を学び、職員の共有認識を図っている。また、ケアを振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を設置し、月1回の職員会議で指針・マニュアルを基に資料配布し、職員の共通認識を図っている。身体拘束排除宣言を掲示し、日中の玄関の施錠はせず行動制限や言葉による拘束も含め身体拘束ゼロを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者の身体状況についての気付き、観察を行い、報告及び連絡をする。また定期的に身体拘束委員会を中心に勉強会を開き、学習する機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全職員を対象に、学習委員会を通して権利擁護等に関する勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	基本的な理念や利用時の説明を十分に行うことで、家族や利用者の不安・疑問を和らげ、状況に応じて説明を繰り返すことで理解・納得していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者と直接話す機会を積極的にもち、また意見箱を設置している。利用者の態度から思いを察して、日々のケアに活かせるように努めている。また、家族については、面会時に気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、家族と直接話す機会をもてるようにしている。	利用者からは日常会話や関わりの中で思いをくみ取る様心がけている。家族へはホームの行事参加や面会時にスナップ写真を一緒に見ながら話をする機会を作り気軽に話せる雰囲気や意見等をきいている。出された意見や要望は個人記録や申し送りノートで共有し、ケアに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、ミーティング(スタッフ会議)を開催し、また日々の申し送りを利用してスタッフからの意見を聞き、検討・改善できるように努めている。</p>	<p>管理者は職員とのコミュニケーションを大切に日頃から職員への声かけを行い、月1回のミーティング、毎日の申し送り時を含め、日常的に意見や提案を聞く機会を設けている。必要に応じて随時、個人面談も行い意見を反映させるよう心がけている。利用者の個々に応じた介護方法を職員全員が共有して関わる等、意見を反映させている</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を積極的に行っています。取得後は、手当として給与等に反映するだけでなく、本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働条件作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を積極的に受けられるよう機会の確保に努め、更に各種委員会活動を通して職員一人ひとりの資質の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が相談をスムーズに行えるように、必要十分なスタッフ(援助者)を配置し、利用者の小さな変化を見逃さないように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談を受け止め、アドバイスができるような環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの意向だけでなく、必要に応じてサービス利用機関や行政等とも連携をとりながら慎重に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から、利用者から教わる場面が多い。また、そういう場面を多くもてるように声かけなどに心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の日常の様子について家族との情報交換を行い、情報の共有に努め、理解し合いながら、本人にとってより良いケアができるように支えあう関係づくりに努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまで大切にしてきた友人・知人との交流が絶えることの無いように、家族に協力してもらいながら支援に努めている。地域のイベントに参加して、知人等と会える機会をもてるようにしている。</p>	<p>馴染みの店への買い物や美容室利用・地域行事の運動会や六月灯・ガス祭り・地域サロンへの参加、手紙のやり取りや電話の取次ぎ等、人や場所との関係が途切れないよう支援を行っている。地域の方の面会も多く、家族と一緒に外出や外泊も行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員が利用者同士の間に入り、関係を把握して、利用者同士が良い関係を築けるように、必要に応じて声かけや支援を行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も、必要に応じて家族や利用者の相談・支援ができるような関係を保つようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中での声かけ・把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な利用者に対しては、家族・関係者からの情報収集に努めている。	入居歴の長い利用者が多く、生活の流れの中で小さな変化や言葉・表情・仕草などから、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族の情報を参考に職員間で話し合い、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身からの語りや、家族・知人等の訪問時の話等から把握するように努めている。把握できた事柄に関しては、記録に残し、情報を他のスタッフと共有し、それがケアに生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。またスタッフ間で意見交換を行い、計画に反映させている。期間や本人の状態の変化に応じた見直しをその都度行っている。	本人や家族から意見や希望を聞き担当職員・栄養士・看護師・主治医の意見も参考に話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に見直しをしている。必要時、介護計画を見直し作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、水分・食事・排泄等の身体状況や本人の日々の暮らしの様子を記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしており、勤務開始前に確認を行い、ケアに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医との医療連携によって、緊急時にも対応できるように24時間体制をとっている。また、地域の消防署との連携も併せて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしていけるように地域公民館・市役所・学校・地域ボランティア等の関係機関に働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医、地域の歯科、及び他科診療も受けられるよう、家族と協力し通院介助を行っている。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関には2週間に1回の定期受診や週2回の看護師による健康チェックで個人に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。眼科や皮膚科などの専門医への受診は家族の協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置し、また連携医療機関の看護師との連携をとりながら、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために医師と話をする機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるように連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に「看取りについて」の説明を行い同意書を頂いている。また状態の変化が見られる度に本人・家族と話し合い、ホームで提供できる範囲を見極めながら、連携医療機関と協力し支援を行っている。</p>	<p>入居時に「看取り介護について」や「医療連携体制について」の説明を行い同意書を貰っている。利用者の状態変化に応じて、その都度、主治医の説明を基に家族と話し合い支援を行っている。24時間医療連携体制が整っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の連絡体制、いつでも主治医と連絡がとれる体制を整えている。緊急マニュアルを作成し、内容をスタッフ全員が熟知できるように勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>ホーム内の防災委員会を中心に毎月自主的に防災訓練を行い、年2回、消防計画に基づいて消防立会いの実践訓練を行っている。また、周辺地域の方々にも防災訓練(主に見守りや避難所としての駐車場の提供等)に参加していただき、訓練の啓蒙及び地域の協力体制の強化を図っている。</p>	<p>年2回消防署立会でマニュアルを基に昼夜間想定の実践訓練やAED訓練も行っている。スプリンクラーや通報装置も設置している。避難場所は近隣住民の駐車場を提供して貰い、自治会長も参加し協力体制を図っている。防災委員会を中心に月1回、通報訓練やコードの埃点検など環境整備を徹底している。非常時の食料等は母体医療機関で備蓄し、ホームでは缶詰などを保管している。避難用に頭巾も作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議や勉強会等を通して、常に職員の意識向上と統一を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない接し方に努めている。	年間計画で接遇に関する勉強会を実施、個々に応じた声かけや対応に心がけ、特に入浴や排泄介助時には十分注意している。定期的に法人全体の勉強会やスタッフ会議で確認と意識付けが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれに合わせたアプローチで本人の意思の表出を促し、コミュニケーションを図り、自分で決めたり納得しながら生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の健康状態やその日の気分を大切に、食事や入浴時間をずらしたり散歩や外出の支援を行う等、本人のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみについては出来る範囲で本人に行ってもらい、支援が必要な部分を手伝うようにしている。二ヶ月に一度、ボランティアの美容師による散髪をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者に合わせて、食べやすいようにメニューや食事形態を工夫している。誕生日には本人の希望するメニューを取り入れている。	母体医療機関の管理栄養士が栄養面を考慮した献立を作成し、とろみや刻み食などそれぞれに応じた食事形態で提供している。誕生日は希望するメニューを取り入れたり、おやつにねったぼ作りなど、食べるのが楽しみとなるよう工夫している。手作り弁当で花見や季節の行事食、ソーメン流しも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスを考えて作った献立で食事を提供し、食事や水分量は職員が情報を共有し、毎日の記録を確認しながら目標に達するように摂取を促している。摂取量が少ない利用者に関しては捕食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、利用者個々の状態に応じて出来るところは本人にやってもらい、不完全な部分を介助している。また就寝時には義歯洗浄を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄時間や習慣を把握し、トイレ誘導することで、トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表から利用者の排泄時間や尿量を把握し、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。リハビリパンツの使用や昼夜間の尿取りパットの種類の検討を行い利用者の負担軽減にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量に注意し、適度に体を動かす機会をもうけている。できるだけ下剤に頼らず、自然に排泄できるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎朝健康状態を把握し、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。	入浴は基本的に週3回で午前午後実施。健康状態を把握し、希望する時間や湯温に応じて支援している。自動シャワー機が設置され、身体全体にお湯がかかるようになっている。拒否がある場合は、清拭や翌日、気分の良い日に声かけし、個々に応じて1人または2人介助で入浴支援をしている。冬は足浴支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を崩さず、安心して気持ちよく休息できたり眠れるように支援している。また、居室の環境づくりにも留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の添付書を個人記録にファイルし、薬の内容を把握して服薬の支援ができるようにしている。また、状況の変化の確認にも努めている。服薬チェック表を活用して飲み忘れのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれのやりたいこと、出来ることを把握して、役割をもって楽しく過ごせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望により週2～3回のリハビリや、散歩・買い物に出掛けている。普段行けないような場所の希望がある時も、ホームの車を利用したり家族に協力をもらって実現できるように支援している。	日常的に天気の良い日は公園までの散歩や買い物・リハビリに出かけている。地域行事の六月灯・運動会等の参加や年間計画で花見やソーメン流しなどの園外活動、家族の協力を得て外出や外泊などの機会が多い。法人のリフト車を使用しユニット別に外出支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て小額のお金を所持している利用者もいる。家族よりお金を預かり、ホームで管理している利用者でも、買い物や外出時にお金を預かっていることを伝えることで、お金がある安心感をもてるように配慮している。また、本人保管の利用者は、毎日スタッフと一緒に金銭チェックを行い記録している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や知人からの電話を受け、自室で話ができるようにしている。また、ホームに設置されている公衆電話を活用したり、手紙のやり取りができるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとにフロア内を飾り付けたりして常に季節感を感じられるようにしている。カーテン等で光の調節を行ったり、不快な音を立てないように配慮している。</p>	<p>玄関には行事等のスナップ写真のファイルや外部評価結果などが目に触れる場所に置いてある。フロアは明るく、採光や換気・室温・湿度も調整され、加湿器が作動し過ごしやすい環境となっている。利用者にとって混乱を招くような音もなく、テレビやソファがあり、ゆったりとして居心地良く過ごせる環境となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルにそれぞれの座席があり、フロアにソファを置くなどして各々が好きな場所でくつろげるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族の希望により、家具や馴染みの物を置いて、その人らしい部屋づくりをしている。</p>	<p>居室には花をあしらった楕円形の表札がある。本人希望でネーム記載のない居室もある。室内は明るく、ベットやダンス・エアコンが設置されている。テレビや使いやすい透明の収納ボックス、家族の思い出写真集、位牌など大切なものや馴染みのものを持ち込み、居心地の良い居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下等の居住環境が適しているかを確認し、状態が変化した時にはその都度本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように試みている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない